

和地ひとみレポート No.10

第1回タウンミーティング「市長と語ろう会」に参加 テーマは「市財政について」だが…先行きは不透明??



…尾崎市長企画の東大和市タウンミーティング「市長と語ろう会」が7月20日、21日、23日（2回）に実施されました。和地ひとみは20日と21日の会に参加。どちらの会も約40～50名ほどの市民の方が参加されており、多くの市民の皆様の率直な声を多く聞くことができました。

■ 現状とこの先3年の見通しを説明。 このままでは毎年赤字・・・

…冒頭、尾崎市長の挨拶がありました。主なメッセージは「今の東大和市をしっかりと市民の皆様にも知っていただきたいと思わずは財政をテーマにした」「住みよい町ということになると。では、それはどんな町か。私は（市長は）挨拶と笑顔があふれる町だと思う。これからは自分たちで何が出来るかを考えてほしいが、まず挨拶なら誰でもできるし、挨拶は出会いの第一歩だ」「市民の皆様と市の現状に対する認識が少しかけ離れている気がするので、事実をありのままに伝える。率直な意見を頂き、行政に活かしていきたい」というものでした。

…当日は、27 ページほどの市財政についての資料が配布されました。H22年の決算は、現在、総務省で精査中ということで数字はH21年のものでした。最初に企画財政部の方が説明。大きなポイントは①歳入は市税収入の割合が比較的低い、②歳出では社会保障制度の一環として支給する扶助費が毎年、億単位で増えている、③類似団体（地方財政状況調査等の報告に基づいて国が作成する市町村財政指数表において類型別に区分された団体＝自治体のこと。東京26市における類似団体は、H19年度およびH20年度は「国立、福生、狛江、清瀬、武蔵村山、稲城、あきる野、東大和」の8市となっている）の中では平均より良い数字になっている項目も多いが、積立基金については類団平均より非常に少なく、改善すべき大きな点であるというものでした。

…説明の最後に、H24年度、H25年度、H26年度の経常経費の収支見通しについて説明がありました。今のままだと毎年6.3億～7.7億程度の赤字になります。

※当日の資料は東大和市のHPで参照できます。

■ 頑張りたい、一生懸命取り組む・・・ 市民からは「夢、ビジョンが欲しい」 「市独自の収入を得る方法を考えてほしい」

…各回とも、その後約1時間程度の市民からの質問や提案を受ける質疑の時間になりました。初めてということで、財政という話題を飛び越えた意見（市役所、職員の対応サービスの向上について、緑化の問題などについてなど）も出てきましたが、活発な意見交換の時間となりました。

…市長の回答の中に「今後については、今の制度ではなりたないと思っている、頭が真っ暗になってしまうような状態」「まずは景気が回復してくれないと難しい」というコメントがあったことを受けて、市民からは「市独自で収入を得る方法を知恵を出して創り出してはどうか」という意見が参加した両方の会で出ました。狭山丘陵などの自然を生かす、企業を誘致する、大学を誘致するなど、アイデアのきっかけとなる例も出てきましたが、市長の回答は「市役所がお金を稼ぐということについては、現実的にはできることが少ない」「公務員は法律で縛られた中で活動をしているので、民間にいる市民の方のお知恵をぜひ頂戴したい」というもの。市民からは「夢がない話が多く、ビジョンを示してほしい」というコメントも。市長は市民の意見に対して一つずつ回答し、丁寧な対応をしていたと思います。また「頑張ります」「一生懸命取り組みます」というコメントも多かったのですが、せつかくの機会なので、やはり市長の今後のビジョンの片りんでも聞きたかったと感じました。

■ 今後もタウンミーティングは開催

…どちらの会も質問が多く、時間内には収まらないほどでした。尾崎市長は「色々な場所にできる限り出て、色々な人に会って、色々な意見をたくさん聞きたい」とし、今後もタウンミーティングを開催することを宣言。できれば年内に再度開催したいとのことでした。

…まだスタートしたばかりのタウンミーティング。改善すべきところもあったかもしれませんが、直接、市民の声を聞くということは、行政にとっては一番強いインパクトになると思います。今後は、行政から事実の説明プラス何かしらの案＝たたき台を持って開催してもらうと、それに対しての意見交換ができ、双方向という形になるのではないかと感じました。